平成 28 年度第2回うきは市総合教育会議　議事録

１．　　日時　平成 28 年８月 19 日（金）開会 18 時　閉会 20 時
２．　　会場　うきは市役所　２階庁議室
３．　　出席者
◆委員
市　　長　　髙木　典雄
教育委員　　西見　修一
教育委員　　麻生　秀喜
教育委員　　處　　愛美
教育委員　　内山　勝之
教育委員　　家永　由里子
事務局　企画財政課、学校教育課、宮崎靖指導主事

４．　　協議事項　（１）学力向上の取組について
　　（２）学校再編検討の取組について

５．　　議事録
〇開会
〇市長あいさつ
「連日暑い日となり、記録的な猛暑となっています。夕立が少ないですが、早くきて暑さが少し静まることを願っています。昨年度教育大綱を作り、その指針にのっとって具現化をする年です。一つ一つ具体的に進めていきたい。宮崎主事からは学力向上の取組、大きな課題である学校の再編（特に、複式学級のある小規模校）、どれも重要な話しですが、どうぞよろしくお願いいたします。」
●市長
まず、議題「学力向上の取り組みについて」事務局より説明をしてもらいます。
※前回の課題＝「授業研究で、リクルート社スタディサプリを、宮崎指導主事に研究していただきたい。小・中・高校向けオンライン学習サービスがあり、高校生向けは 20 万人が利用している。」に関して。
●宮崎指導主事
「リクルート社スタディサプリについて、よさと課題を整理した。★よさ＝月額 980 円（国社数理英の全教科）、ずいぶん安いと感じた。単元ごとに 10 分の講話の後、ドリルをするパターン。講義もわかりやすい、10 分間が飽きない、ドリルも講義を聞けば誰でも 100 点をとれる。達成感が味わえるし、自信をもつこともできると思った。子どもだけでなく、先生の授業の教材づくりにも役立つと思った。必要な内容を自分で選択できると思った。すきまの時間、短い時間に活用することもできる。履歴が残るので、本人も保護者も確認できる。★課題＝インターネット環境が必ず必要であること、インターネットに関して保護者の監督が必要、個人申込（９人まで可）なので、学校では課題がある、仮に学校でした場合、教師の指導とのバランスが大事だと思います。」
●市長
「利点が多い、課題もある。どういかすかと考えた場合、行政が全面的にやれば、一民間教育ビジネスに肩入れすることになる。リクルート社スタディサプリという素晴らしいものがあって、それがあるのなら教えてほしいという知らない方も多いのではないか。どういう風に伝えたらよいのか。」
●麻生委員
「一企業に肩入れするのはできないが、いろいろな行事で、門の外（敷地外）でチラシを配ることは問題ないかと思う。それから先は、ご家庭がどうするかということですね。」

●市長
「敷地外で PR したらと伝えたらいいですね。」
●内山委員
「学校で、無料体験の感想等を子どもに伝えるとかできませんか。」
●麻生委員
「以前の例として、障害のある方の学童保育所開設で、保護者から特別支援学級に問い合わせがあり、保護者にはその情報を伝えたことがあります。また、学校はネット環境があるので、試行的にやってみることも考えられると思います。」
●市長
「この件については、久次社長さんと話して、動向をみながら対処していきましょう。」
「次に、高山先生のリトミック教育ですが、一部保育所でやってもらっていますが、地方創生の中でも支援していきたいと考えています。そういう動きが見えてきたら報告していきます。久次社長さんと高山先生の提言も受けていますので、いいものはしっかり吸い上げて、実行に移していきたいと思う。」
「市民の中に、「うきは市は学力が低い。こんな状態だと、よその地域から若い世代が入ってこない。」という意見がある。学力向上と子育ての環境を整えないと、人口は増えないと思う。一方で、学力向上の取組は進んできていると聞いたので、市民のみなさんや外部にも、学力向上の取組と結果を伝えていってもらいたい。」
「今、市町村間競争となっていて、国の施策が末端まで届いていない面もあり、市の独自予算（上乗せ）の３本柱がある。１－乳幼児医療（３歳未満・未就学児→小学校・中学校へ上乗せが増えている）、２－保育所の保育料（所得で算定→下げている所もある）、３－任意の予防接種（インフルエンザ）：臨時議会で補填。これらの子育て支援が市民に伝わっていない。熱心に取り組んでいることを伝えることも大事だと思う。移住、若い世代へのアピールにもつながると思う。地方創生の中、教育大綱で、教育・文化の独自性をどうやっていくのかが問われている。百年の大計の視点が大事。毎日新聞で、文化＝マネジメントと言われ、社長の取材欄でも、「日曜日、オペラ鑑賞に行って、自分自身の感性を磨いている」という発想も大事だと思う。文明社会（経済社会）は右肩上がり、それに対し、縮小社会は、独創性が求められる（前例主義への対峙）。「文化的センス＝感性」を磨くことが大事。だから、教育大綱でも文化をやっていきたい。現在、オランダで創作活動をしている人を呼び込んでいる、光教寺でのオランダジャズナイトも企画。また、推進交付金で、内閣府の査定も受けているが、動き出す時は紹介したいと思います。」

②課題＝「漢字の課題学習が多すぎる。」に関して
◆学校教育課
学校に確認しましたが言われた量の半分程度しかない。県の方針は、「鍛えてほめる」であり、そこまで多くはないのではないか。夏休みの宿題一覧表をみてもらえば、漢字の嫌いな子は毎日書くのはたいへんかもしれないが。
●市長
次に、課題＝「クラブ活動で子どもが疲れる（ノー部活動デーを、３日→７日へ変えたらどうか）。※部活休みを、勉強につかえばよいが、遊びに使う可能性もある。→国学院は、スポーツ優秀校だが、土日と朝練は中止、１日２時間でどう効率的に活動するかどうか。」に関して
●麻生委員
「部活動は、試験前のノー部活動に取り組んでいる。子どもの体力には配慮していると思う。試験前３日を延ばしてほしいということですが、３日間の中でも学校は学習指導にも取り組んでいます。１学期末試験の後すぐに中体連の大会がすぐ行われる。野球等のスポーツは、しばらく休むと、体が戻ってしまうということもある。年間の行事計画でも配慮。体育祭を、秋から春に変えようという検討もしてお

り、総合的に考える必要がある。部活動で難しいのは、熱心な保護者との関係もある。」

●市長

次に、議題「学校再編の検討について」協議したいと思います。

●麻生委員

「これまでの検討を報告します。

１－行政改革答申では、小規模校３つを含めて統廃合を検討。その他は維持という内容です。

２－文科省の手引きでは、「一定の集団が必要」とある。つまり、小学校 12 学級、クラス替えができること。最終的には、地域性もあり、市町村の判断となる。

３－四つの自治協議会の代表の方の意見を伺いました。

４－三つの PTA の代表の方、また、保護者全体からも意見を伺いました。保護者アンケートをとった。アンケート結果は、市議会全員協議会で報告するとともに、PTA へも校長を通じて渡しました。

５－３月に策定された総合計画では、学校の活性化とともに、文科省の手引きをふまえて、検討。

６－平成 28 年４月以降の取組

① これまでの一定の論議をふまえる。

② 現在の児童数をふまえる。

→課題:文科省の一定の集団という位置づけ。学級編成の不安定（学級数で先生の数や養護教諭の配置が変わる。）が生じている。

③ 次期学習指導要領（平成 32 年度から小学校全面実施）をふまえる。

→課題: 平成 32 年には、アクティブラーニング、対話・主体性・深い学びが重視される。

④ 五年生～六年生の教科外国語英語教育（平成 32 年度）の新設をふまえる。

→課題:複式での外国語（英語）活動はあるが、教科外国語（英語）教育を複式でしたことがない（本年度から国語を２学年の共通教材から、各学年の発達に合わせた教材に変更したが、一学年の人数が少ない中なかなか指導が難しい。同じ言語教科であるが、外国語（英語）の場合さらに複式での指導は厳しい。）

⑤ 複式教育の指導面のあり方

→課題:学級の数により教員の定数が決まるため、先生の指導上の負担等様々な課題がある。

⑥ 保育所と小学校の関係

→課題:保育所は統廃合され、保育所は一緒だが、小学校では別の学校になってしまう。

●市長

「保護者の考え方と地域の考えた方に違いがあると思う。「小学校があるから、地域の元気がある。」密接不可分の面がある。地域をあげて、清掃やイベントに取り組んでいる。小学校がなくなると、地域の元気がなくなると考える方もいるのではないか。浮羽町は面積が広く、中山間地域を抱えている、小集落もある、九州北部豪雨の影響もある。しかも、縮小社会を迎え、コンパクト化（賢く集まる、ドイツの城壁文化、小学校校区での小さな拠点づくり）とネットワーク化が大事。鹿児島県の天文館は、地域を集めた事例がある。うきは市をどうするか、理念でまとめていかなければならない。自治協議会は、地域課題をどうするのかを考える、そこに子どももいる。自治協議会が、どうカバーするのかが大事になると思う。」

●處委員

「子どもの教育面から考えても、社会が求めている人材（コミュニケーション能力や多様な考え方を受け入れる）づくりのために、クリエイティブ（独創性）を培っていく。まちづくりの理念を示して、営々と築かれた文化（地域文化）の独自性をうきは市として支え、継続させていくことも大切です。そして、未来を担う子どもたちは、いろいろな人と出会う場を提供することが大事だと考える。」

●内山委員

「保育所が違うと、１年生ぐらいはあまり感じないが、上学年になると、難しくなる。子どもたちのこ

とを考えるなら、コミュニケーション能力を伸ばすことが大事だと思う。」

●市長

「複式学級は、ある意味、個人授業のマンツーマンであり、密接丁寧な教育ともいえる。逆に言えば、家庭教師的な過保護になりやすいのでは。」

●西見委員

「検証はしていませんが、中学校では教科担任制になるので、そういう面があると思います。大勢の中で育つことも大事。」

●市長

「甘えん坊や指示待ちになるとか、弊害はありませんか。」

●麻生委員

「丁寧でよいという意見もあるが、子どもから見て、「先生が近すぎて嫌だ」という例もある。」

●西見委員

「複式学級の本来の姿は、自学自習（どこでもやるべきもの）。以前は、生徒リーダーが先生の指示をやる（先生のサブ）形式だったが、今は、あまりにも少人数で、複式のよさができない状況です。」

●麻生委員

「先生と子どもの関係、子ども同士で育つという意味で、「授業は間違えるところだといわれるように、間違う中で、正解に導く」という教育ができない。」

●家永委員

「小規模校に転校して、精神不安がなくなり、助かった事例もあります。」

●市長

「全国を見れば、１名でも残すべきである、廃校から１名のために小学校を開設した例もある。」

●金子課長

「一人でもいれば存続という意見もあるが、うきは市の場合、離島とは条件が違う。」

●麻生委員

「子どもが一番という考え方。文科省の一定の集団で育つという指針を保障しなければならない。熊本の一人のための廃校復活の例は、新聞等によれば近隣の学校まで約２時間かかるという状況。うきは市の場合は、スクールバス等で対応すればどこであっても 30 分程度（文科省は通学時間１時間程度）で通学できる。」

●西見委員

「何か変えて、子どもがたくましく生きる、自ら課題を持って、自ら切磋琢磨する、時には涙を流す苦労も必要です。そのためにも、集団が基本、つまり、同年齢の集団は学校で切磋琢磨することが大事（昔のような大家族の機能は、今の家庭にはない）。」

「子どもにとって何が一番大切なのか。文科省、県教委、筑後の状況も見ていくことも大事。」

●市長

「公共施設の管理計画を、来年３月に策定する予定。合併から 11 年、合併のメリットは、施設の統廃合。縮小社会で、身の丈にあった財政運営をしなければならない。火葬場、保育所は統廃合してきている。２つのホールはどうなるか、学校施設はどうなるか、問われている。」

「１つ目は、子どもの教育の視点で、２つ目は、地域の視点で、３つ目は、小学校平成 32 年度からの新学習指導要領への対応等で検討し、丁寧なプロセスを進めていきたいと思う。」